

## 1項 日中音響学会議2007(1節 通研国際シンポジウム, 第5章 国際会議・シンポジウム等)

雑誌名	東北大学電気通信研究所研究活動報告
号	14
ページ	281
発行年	2007
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/40829">http://hdl.handle.net/10097/40829</a>

## 5. 1 通研国際シンポジウム

### 日中音響学会議 2007

#### Japan-China Joint Conference on Acoustics (JCA2007)

開催日：平成 19 年 6 月 4 日（月）～ 6 日（水）（3 日間）

開催場所：東北大学青葉記念会館

本会議は、デジタル時代における「音響学」の今後を 21 世紀の音響学の担い手として重要な地位を占めることが期待されている日中の研究者同士で討議し、今後の方向を探ることを目的として開催されるものであり、これまで、1985 年、2002 年に行われてきた。今回は、2007 年 6 月 4 日～6 日に東北大学青葉記念会館で行われ、日本からは、一般 64 名、学生 23 名、中国側からは、最終的に、一般 20 名、学生 1 名が参加した。

キーノート講演は、日中両国から各 2 件（Prof. Kazushi Yamanaka, Dr. Honglang Li, Prof. Akira Omoto, Prof. Yonghong Yan）、スペシャルセッション（招待講演件数）は、(1) 3-D Reproduction/Audio Reality（座長：Prof. Yukio Iwaya, Prof. Xiaodong Li；4 件）、(2) Speech Signal Processing/Coding/Enhancement（同：Prof. Masato Akagi, Dr. Jianhua Tao；5 件）、(3) Bio Acoustics（同：Prof. Hiroyuki Hachiya, Prof. Zhangcai Long；4 件）、(4) Acoustics for Future IT（同：Dr. Shoji Makino, Prof. Jun Yang；4 件）の 4 セッション（計 17 件）を設けた。各講演ではこれまでの研究成果に加え、将来の IT 社会で音響学に期待される役割等まで含めた発表と活発な議論が交わされた。また、両日ともに一般講演のためのポスターセッションを 1 スロットルずつ設けた。初日 30 件、二日目 36 件、合計 66 件（うち中国 14 件）の盛り沢山なセッションとなり、概要講演を含め大変盛況の中に終了した。

また本会議中には、東北大学内の音響学に関連する研究室のラボツアーも行われた。見学は青葉山地区と片平地区と 2 回に分けて行い、青葉山地区は 6 月 4 日にバイオロボティクス専攻和田研究室、材料システム工学専攻山中研究室、電気・通信工学専攻牧野研究室・櫛引研究室、電子工学専攻金井研究室を、片平地区は 6 月 6 日に流体研究所の裘研究室、スーパーコンピュータ室、衝撃波研究センター、電気通信研究所の矢野研究室・鈴木研究室を見学した。参加者は、約 30 名（日本人含む）であった。活発な質疑応答が行われ、参加者も興味を持って見学をしていたようであった。片平地区では、魯迅の階段教室も見学し、特に中国からの参加者にとっては感慨深そうな様子が印象的であった。

